

愛知県立芸術大学創立 50 周年記念国際シンポジウム「異文化へのまなざし」 コンサート 開催概要と出演者プロフィール

※コンサートの会場は、いずれも愛知県立芸術大学室内楽ホールです。
プログラムが変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

■レクチャーコンサート 1 2016 年 9 月 23 日（金）16:15～

「実験工房の作曲家たちにみる東洋の影響——フルート作品を中心に」

実験工房は、詩人である瀧口修造の呼びかけにより 1951 年に結成された 20 代の芸術家たちによる総合的なグループで、美術家、写真家、ピアニスト、詩人、作曲家などから構成されていた。そのうち作曲家は、佐藤慶次郎（1927-2009）、湯浅譲二（1929-）、武満徹（1930-1996）、福島和夫（1930-）、鈴木博義（1931-2006）の 5 人である。彼らは、アカデミズムとは一線を画し、西洋の前衛技法を使いつつも東洋の美意識にこだわり、クロス・カルチャルな創作活動を行っていた。前衛と伝統とが、どう融合されたのかを明かし、その具体的な例として丹下聡子と内本久美によりフルート作品を演奏する。また、これらの研究と創作活動とがどう結びつくのかの一例として、成木理香の新作も演奏する。

出演者：

丹下聡子（フルート）

内本久美（ピアノ／愛知県立芸術大学ピアノコース准教授）

成木理香（作曲・レクチャー）

プログラム：

武満徹：《巡り》——イサム・ノグチの追憶に

福島和夫：独奏フルートのための《冥》

福島和夫：アルト・フルートとピアノのための《エカーグラ》

湯浅譲二：《舞働 II》～アルト・フルート（または能管）のための

成木理香：TRACE VII for Solo Flute（初演）

丹下聡子（たんげ さとこ）

神奈川県立弥栄東高等学校音楽コース卒業。愛知県立芸術大学音楽学部音楽科器楽専攻管打楽器コース（フルート）卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了、博士後期課程修了。同大学初のフルートでの博士号取得。大学定期演奏会、卒業演奏会、読売中部新人演奏会等に出演。第 7 回なごりアスペン音楽祭にて音楽賞受賞。翌年、奨学金を得てアメリカ・コロラド州アスペン音楽祭に参加。講師の推薦を受けて Young Artist Concert に出演した。ソロリサイタルは愛知県小坂井町、名古屋市ほかで開催。1999 年～2005 年には愛知シンフォニエッタのメンバーとして、新作室内オー



ケストラ作品の初演やバレエ公演に携わった。2002年に愛知県立芸術大学音楽学部25期生を中心に結成されたアンサンブル・カラヴィンカでは代表を務めており、これまでに11回の定期公演やチャリティーコンサート、子供のためのワークショップなどを行っている。2013年、大学より海外渡航助成を受け、フランスで資料調査を行う。2014年11月、第65回日本音楽学会全国大会にて研究発表。フルートを、村田四郎、酒井みさを、ネディン・エイシンの各氏に、室内楽を、菅原眸、中川良平、村田四郎の各氏に師事。現在、愛知県立芸術大学非常勤講師。音楽クラコ座メンバー、日本フルート協会会員、日本音楽学会正会員。

内本久美（うちもと くみ）

テノール歌手の祖父 内本實の指導のもとピアノを始める。原智恵子、深沢亮子両氏に師事。C. モンテヴェルディ音楽院を最高点で卒業後、イモラ・ピアノ・アカデミー入学コンクールに合格、L. ベルマン、A. シフ、A. ロンクイッチ、F. スカラ、P. ラッターリーノに学ぶ。現代音楽に特別な関心を寄せ、アンサンブル・イカルのソロ・ピアニストとして20年以上活動を共にし、現在に至る。G. マンゾーニ、S. ブッソッティなどイタリアを代表する作曲家の作品を数多く初演。ミラノ・スカラ座をはじめとするイタリアの劇場やヨーロッパ各地、アメリカ、南米、ロシアの劇場、また、現代音楽フェスティバルからの招聘を受けて行ったコンサートツアーは、各地の国営放送で録音、ラジオ放送された。ストラディ ヴァリウス出版、リコルディ出版などからCD9枚をリリース。愛知県立芸術大学音楽学部ピアノコース准教授。金城学院大学非常勤講師。音楽クラコ座メンバー。



成木理香（なりもと りか）

和歌山市出身。愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業、桑原賞受賞。同大学院修士課程、博士後期課程修了。同大学初の作曲での博士号取得。現音作曲新人賞はじめ様々なコンクールに入選の後、2008年には日本人の受賞は9年ぶりとなる第29回入野賞を受賞、2015年 Iron Composer Competition（アメリカ）第3位入賞。大桑教育文化振興財団大桑文化奨励賞、愛知県文化選奨文化新人賞受賞。作品は日本のみならずオランダのガウデアムス音楽週間を始め、エジプト、ウクライナ、オーストリア、ドイツ、アメリカ、カナダ、フィンランドなどの国際フェスティバルやコンサートで演奏され、ALM RECORDS や CAFUA Records、アメリカの Boulder Bassoon Quartet よりCDがリリース、ティーン出版やイタリアの ARS PUBLICA 社より楽譜が出版されている。アメリカの ACC（アジア・カルチュラル・カウンスル）の2010年度フェローに選ばれ、招聘を受けて2011年渡米、ニューヨークに居住しアメリカの現代音楽と現代芸術に関する調査・研究活動を行い、滞在の終盤には自作自演を含むプログラムで個展（リサイタル）を行い好評を博した。作曲を森川隆之、松井昭彦、故・兼田敏、岡坂慶紀、フィリップ・マヌリ、湯浅譲二、久留智之の各氏に師事。愛知県立芸術大学、金城学院大学、名古屋芸術大学、金沢大学各講師。日本音楽学会正会員、日本電子音楽協会会員。名古屋市立大学芸術工学部研究員。



■特別コンサート 2016年9月23日(金) 17:30～

「愛知芸大所蔵 鈴木政吉 1929年製手工ヴァイオリンによる特別コンサート」

鈴木政吉が円熟期に製作した高級手工ヴァイオリンは、現在ではほとんど残っていないが、そのひとつが所有者の松浦正義氏から愛知県立芸術大学に寄贈された1929年製の楽器。一枚板で作られた裏の模様が見事な逸品で、修復後、2014年5月に行われたお披露目演奏は大きな反響を呼んだ。それ以降、この楽器を使って明治大正の音楽会を再現する試みなど、さまざまなコンサートが行われている。半世紀の眠りから覚めた政吉ヴァイオリンは、演奏を重ねるにつれ、楽器の音がつややかに鳴り響くようになり、あでやかさを増している。今回の特別コンサートでは、桐山建志本学准教授の演奏により、この楽器の魅力を存分にお楽しみいただく。

出演者：

桐山建志（ヴァイオリン／愛知県立芸術大学弦楽器コース准教授）

江川智沙穂（ピアノ）

井上さつき（ミニレクチャー／愛知県立芸術大学音楽学コース教授）

プログラム：

ヒンデミット：ヴァイオリン・ソナタ ニ長調 作品11-2

ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第9番 イ長調《クロイツェル》

桐山建志（きりやま たけし）

3歳より才能教育でヴァイオリンを始める。東京藝術大学を経て同大学院修了、フランクフルト音楽大学卒業。1998年第12回古楽コンクール「山梨」第1位。1999年ブルージュ国際古楽コンクールソロ部門第1位。レコード芸術特選盤「シャコンヌ」を皮切りに、多数のCDをリリース。2009年、ベーレンライター社より星野宏美氏との共同校訂による「メンデルスゾーン：ヴァイオリン・ソナタ全集」の楽譜を出版。現在、愛知県立芸術大学准教授、フェリス女学院大学講師。「松本バツハ祝祭アンサンブル」コンサートマスター、「エルデーディ弦楽四重奏団」ヴィオラ奏者。チェンバロの大塚直哉と共にデュオ・ユニット「大江戸バロック」を主宰。



江川智沙穂（えがわ ちさほ）

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業、愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程修了。ルーマニア国際音楽コンクールなど受賞多数。ソリスト、アンサンブル奏者として多方面で活動している。2013年、セントラル愛知交響楽団とブラームスのピアノ協奏曲第1番を共演。2014年、ソロリサイタル開催。ボト・レヘル、ヴィクトア・トイフルマイヤー、パヴェウ・カミンスキー、エヴァ・ポブウォツカ、ボリス・ペトルシヤンスキー、ク



ラウス・シルデ、シプリアン・カツァリス氏等のレッスンを受ける。これまでに、志村朱美、佐野翠、角野裕、永野美佐子、ラルフ・ナットケンパーの各氏に師事。

■アフタヌーンコンサート 2016年9月24日(土) 14:00～

「歌曲にみる異文化へのまなざし——H.ヴォルフの歌曲を中心に」

ドイツ・ロマン派歌曲の大家であるフーゲー・ヴォルフ (Hugo Wolf, 1860 - 1903) は、スペイン、イタリアの詩人による詩をドイツ語翻訳した詩集を元に、《スペイン歌曲集》《イタリア歌曲集》を相次いで作曲した。彼が異国の詩を選んだ理由として、当時のドイツにおいて外国文学の翻訳が流行していたこと、更にはヴォルフ自身の南欧への関心が挙げられる。母親が南欧系の血を引き継いでいたこともあり、南国の明るさ、解放感、異文化に対するヴォルフの強い憧憬が、これらの作品の異国情緒漂うリズム、旋律、和声から窺える。

本コンサートでは、これらの歌曲集を中心としながら、他の作曲家の「異文化」を題材とする詩から着想を得た歌曲も演奏する。

出演者：

高木彩也子 (ソプラノ)

青木園恵 (ピアノ)

プログラム：

シューベルト：ズライカ I

メンデルスゾーン：歌の翼に

ヴォルフ：《スペイン歌曲集》《イタリア歌曲集》より抜粋 他

高木彩也子 (たかぎ あやこ)

岐阜県立大垣北高等学校卒業。愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業、桑原賞受賞。

同大学院音楽研究科博士前期課程ならびに博士後期課程修了。同大学初の声楽での博士号取得。オペラでは、《コジ・ファン・トゥッテ》(デスピーナ)、《カルメン》(ミカエラ)、宗教曲では《ロ短調ミサ》、《ヨハネ受難曲》、《マニフィカト》等にソプラノソロとして出演。また現代曲では、レクチャーコンサート「ダンテ《神曲》の夕べ」において、M.A. コンソリー作曲「ファンタジア・チェレステ」を日本初演。同演奏会を2010年、イタリアのアヴェヴェリーノにて行う。2015年にはA. ルオフ作曲「KO WO OMOU (子を想う)」を日本初演。その他、同大学定期演奏会、卒業演奏会、読売中部新人演奏会、第16回岐阜市新進演奏家オーディション合格(同演奏会出演)等、様々な演奏会に出演。2011年ザルツブルグ・モーツァルテウム夏期国際音楽アカデミーにてエッダ・



モーザーに師事。ディプロマ取得。第16回大阪国際音楽コンクール声楽部門歌曲コース Age-G エスポアール賞受賞。

2016年に名古屋、大垣にてソロリサイタルを開催。これまでに声楽を大下久深子氏に師事。現在、愛知県立芸術大学、愛知県立大学、大垣女子短期大学各非常勤講師。

青木園恵（あおき そのえ）

京都華頂女子高等学校音楽科を経て、愛知県立芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。在学中より演奏活動を始め。ソロ活動の他、室内楽、声楽リサイタルの伴奏ピアニストとして多数のコンサートに出演。またオペラ作品のコレペティにも積極的に取り組み、幅広く活躍中。これまでにピアノを木村幸子、奥本紀美子、岡田千秋、加藤美緒子、ドイツ歌曲の伴奏を大下久深子の各氏に師事。現在、修文大学短期大学部、椛山女学園大学、名古屋短期大学、愛知県立豊田東高等学校、各非常勤講師。京都音楽家クラブ会員。



■レクチャーコンサート2 2016年9月24日（土）18:10～

「フランス人音楽家アンリ・ジル＝マルシェックスと日本文化」

アンリ・ジル＝マルシェックス（Henri Gil-Marchex, 1894-1970）は、パリ音楽院を首席卒業後、ヨーロッパを中心に活躍したフランス人ピアニストである。彼は1925（大正14）年から1937（昭和12）年まで計4回来日し、講演やコンサートを行ってフランス音楽や近現代作品の魅力を伝えた。当時ドイツ音楽寄りだった日本の音楽界は、彼の演奏に衝撃を受け、その一方でジル＝マルシェックス自身も日本の伝統芸能や日本音楽に興味を抱き熱心に研究するようになった。

このレクチャーコンサートでは、彼の日本における音楽活動の軌跡をあらゆる資料で辿り、彼の日本文化に関する記述を読み解くことで、ジル＝マルシェックスの日本文化への眼差しを明らかにする。そして彼が日本文化に感銘を受けて作曲した作品や彼と親しかった日本人作曲家による作品を演奏する。

出演者：

白石朝子（ピアノ・レクチャー）

河合玲子（ソプラノ）

プログラム：

大澤壽人：《丁丑春三題》

アンリ・ジル＝マルシェックス：《古き日本の二つの映像》より〈出雲の秋月〉

アンリ・ジル＝マルシェックス：《芸者の七つの歌》

白石朝子（しらいし あさこ）

愛知県立芸術大学音楽学部卒業。同大学院音楽研究科修士課程、博士後期課程修了。博士（音楽）。在学中より大学定期演奏会、卒業演奏会、読売中部演奏会等様々な演奏会に出演。2003年カリフォルニア大学にて（故）ヴィタリー・マルグリスのマスタークラスを受講。2007年第8回シヨパン国際ピアノコンクール in Asia 全国大会シニアソロC部門金賞。2008年、2013年、2014年東京と名古屋でソロリサイタルを開催。2010年財団法人日東学術振興財団より研究助成、2011年大学より成績優秀者表彰及び海外渡航助成を受ける。2010年第62回日本音楽学会全国大会、2016年国際学会“COLLOQUE FRANCE-JAPON 2016-2017”（パリ）にて研究発表。これまでにマイヤー兼松るり子、ローラント・ケラー、ヴァディム・サハロフ、松本総一郎の各氏に師事。現在、名古屋女子大学短期大学部専任講師、愛知県立芸術大学非常勤講師。日本音楽学会、全日本音楽教育研究会、全国大学音楽教育学会、日本ピアノ教育連盟会員。



河合玲子（かわい れいこ）

愛知県立芸術大学音楽学科声楽科卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了。愛知県立芸術大学音楽振興会<中村桃子賞>受賞。

オペラや宗教曲ソリストとしての活動の他、アンサンブルや、イタリア歌曲、フランス歌曲、日本歌曲などの研究に積極的に取り組み、幅広いレパートリーを持つ。

2001年、ソロ・リサイタル、2004年、日韓親善交流演奏会のメンバーとして、ソウル市内及びヒョブソン大学にて演奏し、また、2006年にはドイツ・ヴェルツブルグに於いてシーボルト協会主催による「日本文化の夕べ」にて日本歌曲演奏会をおこない好評を得る。

また、これまでに尾張旭児童合唱団、日進・銀の鈴合唱団、尾張旭女声コーラス、守山女声コーラスの指導も行い、発声法や地域社会における合唱の普及に努める。

名古屋女子大学短期大学部専任講師。日本音楽学会、全日本音楽教育研究会、全国大学音楽教育学会、日本学校音楽教育実践学会、日本風俗史学会、名古屋オペラ協会会員。

